連載企画──音の博物館──

パリ・音楽博物館*

西 村　明（音響教育調査研究委員会/東京情報大学）**

パリにある音楽博物館（Musée de la musique）は Cité de la musique（音楽街とでも訳す?）と呼ばれる一連のモダンな建築群の一角を担い，1997 年にオープンした。シャルル・ド・ゴール空港から RER（高速郊外鉄道）B3 線に乗車し，約 30 分で到着するパリ北駅から地下鉄 5 号線に乗り換えて，10 分ほどの Porte de Pantin 駅下車すぐにある。パリでの乗継便を利用する際に，最低 2 時間ほどの余裕があれば，往復することだけはできよう。かくゆう著者もそのクチで，見学時間は 40 分ほどだったのだが，ここで簡単に紹介させていただく。

常設展示の主体は，やはり楽器であり，各フロアは西洋楽器を中心とした時代ごとの展示と，ワンフロアでは民族楽器の展示がなされている。展示の説明文はすべてフランス語なので，入口で無料貸出される赤外線式ヘッドホンは重宝する。展示のすべてではないが，ヘッドホンのアイコンのある展示付近では，繰り返される英語の説明とその楽器を用いた演奏音を，比較的まともな音質で楽しむことができる。展示されている楽器の数や内容は，浜松市の楽器博物館などと比べて特に充実しているとの印象は持たなかったが，広くゆったりした展示は環境の違いを感じさせる。特徴的な展示は，時代に沿った幾つかの音楽ホールの断面模型であろう。実は他に珍しい展示もあったが，解説音声がなく説明板のフランス語も理解不能だったので，ここでは紹介せずに皆様が訪問する際にご確認いただきたい。展示でのすべての説明を逐一聴き，楽器を眺めながら渡り歩いたとすれば，2 時間程度はかかるのではなかろうか。

時限展示としては，“音楽” 博物館の名のとおり，楽器に限らない様々な展示を行っているようだ。

図–1　正面入口を望む。左が博物館で時限展示のポスタが見える。右はカフェと音楽ホールであり，中央のホールで左右は接している。奥には音楽文書館などがあり，全体で写真の 5 倍程度は大きい。

今回著者が訪問した際には約 8 か月間の “John Lennon, unfinished music” が開催されており，彼の当時をうかがわせる写真パネル，楽器，ビデオ，ジュークボックス（もちろん音楽が聴ける）等を，白を基調としたアーティスティックな内装と配置で展示していた。また，博物館にはコンサートホールが吹抜けのホールを介して接しており，週の半分は何かしらの演奏会が行われているそうだ。

さて，この記事を書く参考かつ旅の記念にと，売店にて博物館のガイドブックを求めたが，さすがに英語のものはないそうで，カラフルな写真満載のフランス語ガイドを 9 ユーロで購入した。その一方，WEB サイト（http://www.cite-musique.fr/）では英語での情報が比較的得られる。時限展示やコンサートのスケジュール，オンライン予約，Virtual Tour と銘打った Flash による館内展示の 360 度閲覧と一部楽器の解説も提供されている。

更に，WEB サイトによると様々な館内ガイドツアーもあるらしい（フランス語でなければ良いが...!?）。2 か月にわたる夏季休館もあるそうなので，事前に WEB サイトで情報を仕入れて訪問すると万全であろう。

* Music museum in Paris.

** Akira Nishimura (Technical Committee on Education in Acoustics/TUIS, Chiba, 265–8501)